

ベンチャーキャピタルの投資に関する一考察

目論見書を利用した情報通信・サービス企業への投資状況の分析

九州大学大学院博士後期課程 小樋昌孝

本報告では、成長初期段階を定義して、ジャスダック、マザーズ、ヘラクレスへ株式公開・上場を果たした情報通信・サービス業のうち、新規株式公開目論見書が入手可能であった企業を対象に、日本の VC（投資事業組合に限定）がどのくらい成長初期段階へ投資を行っていたのかを明らかにする。ただし本報告は、VC の成長初期段階への投資の全体状況が明らかにできるものではなく、あくまでも分析対象企業の投資状況を示すものである。

考察方法は、本報告における企業の成長段階を定義し、ジャスダック（1998 年以降）、マザーズ（市場開始以降）、ヘラクレス（同左）へ創業後約 6 年で株式公開・上場を果たした情報通信業・サービス業のうち、株式目論見書が入手できる企業を対象に、VC の成長初期段階の投資状況を明らかにした

考察の結果、ジャスダックへ公開した企業へ投資をした VC は、本研究で定義する成長初期段階での投資をほとんど行っていないことが明らかになった。マザーズ、ヘラクレスへ公開・上場した企業へ投資をした VC は、多数成長初期段階への投資を行っていたことが明らかになった。ただし、投資先企業によって大きな差があった。

本報告の目的とはずれるが、マザーズ・ヘラクレス市場は、VC が成長初期段階企業への投資を行いやすくするために、重要な役割を果たしていることも理解できた。